

2015年10月10日（土）14:00～16:00 於：横浜美術館円形フォーラム

三溪園には、海を臨む丘の上に昭和39年に建てられた展望台「松風閣」がありますが、明治から大正にかけてその近くに、茶会に使ったり客人が宿泊したりした「旧松風閣」が建っていました。その煉瓦造建築の遺構について、平成22年と23年の発掘調査に携わった青木様から詳しくお話を伺いました。

## 三溪園旧松風閣について～横浜の近代遺跡調査～

講師：青木祐介様（横浜都市発展記念館）



大変だった発掘調査の様子やそこからわかったことを中心にお話をいただきましたが、その内容は、青木様がお勤めの横浜都市発展記念館の紀要に詳しく記載されています。（青木祐介、坂上克弘、鈴木重信「三溪園旧松風閣調査報告」『横浜都市発展記念館紀要』7号、口絵5-8頁、25-62頁、2011.3。および、「同報告 その2」『横浜都市発展記念館紀要』8号、口絵3-8頁、44-71頁、2012.3。）

2012年8月には、横浜都市発展記念館で発掘品の展示会も行われたとのことでした。



質疑応答の様子

質疑応答では、北西外壁面の煉瓦積みアーチの下からは何も見つからなかったことについて、会員から雨を貯める池だったのではないかとの意見が出されました。また、出土した煉瓦に愛知県産のものが混じていたことについて、地元にも煉瓦工場があったにもかかわらず、なぜわざわざ遠方の煉瓦が使われたのかといった謎について意見が交わされました。